
刹那・神咒神威

Acta est Fabula

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

刹那・神咒神威

【Nコード】

N9829Y

【作者名】

Acta est Fabula

【あらすじ】

次代を担うものが現れてくれた。「俺の役目も終わった」これは一人の男のもしも、そして、刹那の物語である。

プロローグ（前書き）

すみません、半年以上ぶりです。性懲りも無く三作目、こんな書くくらいなら続きかけと言ってくるかもしれませんが・・・本当にすみません一作目と二作目の書いていた話が五月くらいにパソコンが壊れたことによりすべてのデータが消えました。

そして今月まで仕事の都合により書くことが出来ませんでした。なので申し訳ないと思いますが、一作目と二作目を削除してこの話ひとつでやっていこうと思います。

未知なる結末と東方殺人伝を楽しみにしていた読者にお詫びします。

ブローグ

「・・・くつく・・・」

男はこれから起きるであろうことに思いをはせ笑っていた。自分たちの後をついで行く者たちが現れてくれたこと、自分が倒された後に起こるであろう次代を担うものたちの戦い、そして・・・

「・・・滑稽だな第六天」

自分たちが・・・

「貴様は負ける!!」

勝利したことに。

「俺たちの勝ちだああ!!」

男は漂っていた暗い空間を、体は少しずつ粒子となって消えていく。だがそれに恐怖は無かった。次代を担うものが現れ自分たちの意思を継ぎ、自分たちに勝利したから。

「これで俺の役目も終わりか……。」

男は空間に身を任せ呟いた。

「……君が居なくなってから長い時が過ぎてしまったよ。」

「……なあ聞いてくれ、やっと俺たちの意思をついでくれるやつらがあらわれたんだ。あいつらがきつと俺たちが守ってきた黄昏よりもいい世界にしてくれるはずだから。」

「きつと俺だけじゃ駄目だったろうな……あいつらが居たから俺はここまでやることができたんだ」

男は自嘲ぎみに笑いながら答えた。

「司郎、戒、櫻井、ベアトリス、リザさん、ルサルカ、ミハエル、……そして先輩……」

「戒も櫻井も真面目すぎてさあ、あいつらを殺したって言ったとき若干焦ってたんだ俺。しかもその後の戦いも殺す勢いで戦ってたし。リザさんとルサルカはなにもなくて傍観してるのが多かったようなきがする。先輩にいたっては俺に座を取れって言ってくるし……」

」

「ミハエルはミハエルでどこかに引きこもってるし、司郎にいたってはそれが必要だってのは分かるけど・・・場を引っ掻き回しすぎだろうが！！あれ絶対自分が楽しんでたろうが！！」

男は声を張り上げる、頭の中に悪友を思い浮かべたら馬鹿笑いしてた。・・・ム力つく。

「・・・でも本当にあいつらに感謝してるし誇りに思ってるんだ・・・」

男は仲間達の顔を一人づつ思い浮かべていた。消して忘れないように、自分の魂に刻むように。

「もし・・・」

「もし次があるのならまたみんなで・・・」

あの消えていった黄昏の刹那を味わおう・・・

「うん、そうだね」

「・・・っ！！」

男はそれが幻聴だとわかっていた。自分たちが守っていた黄昏の女神はもう居ない、今の座に座るやつに殺されたから・・・でも・・・

「・・・ああ、そうだね。」

男にはその声が幻聴ではなく自分の最後に彼女が答えてくれた最後の言葉だとそう信じることにした。

だから最後に男は彼女に最後にある言葉を伝えた・・・

「時よ止まれ・・・君は美しいから・・・」

そうつぶやくと男は粒子となってこの暗闇の空間から消えていった。

こうして夜都賀波岐首領、天魔・夜刀は次代の者たちに意思を託しこの舞台から退場していった・・・

だが、彼の物語はまだ終わっていないかった・・・

今から始まる物語は彼の話・・・

さあ、今から刹那の物語を始めよう・・・

この物語に脚本家はいない・・・

すべては、この物語に参加する役者しだい・・・

プロローグ（後書き）

はい、主人公は蓮炭です。神咒神威神楽ではこいつが主人公だろと思っただのかっこよさでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9829y/>

刹那・神咒神威

2011年11月29日19時50分発行